

JGN2 イベント利用報告書

平成16年7月17日

京都大学学術情報メディアセンター

1. イベント名

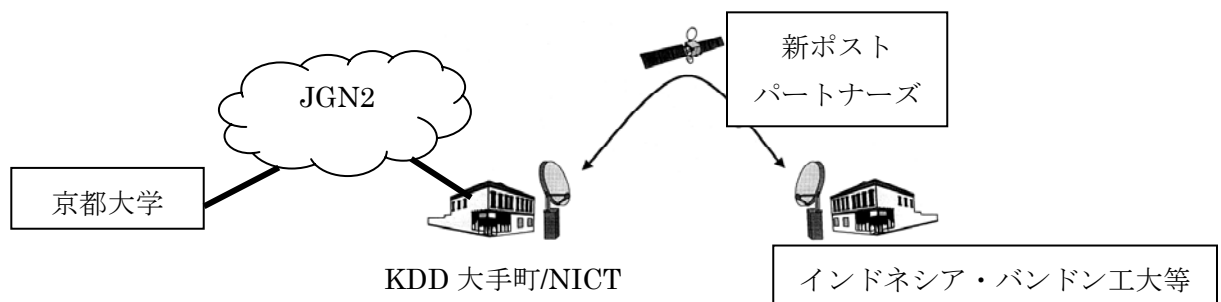
衛星回線による東南アジア域での Virtual Geoscience 実験

イベント番号：イベント-011

2. イベントの概要

京都大学・生存圏研究所、同・理学研究科地球惑星専攻、同・防災研究所の研究グループは、インドネシア・タイなどの東南アジア諸国の研究機関・大学と国際共同で、地球流体圏・固体圏に関する多種多様な現地観測を行っている（例えば、スマトラ島の赤道大気レーダー、バンドンの絶対重力計測定）。これらの多目的観測ネットワークで取得されるデータは従来個別に解析されていたが、活地球圏の現象を総合的に解明するには、種々のデータを自在に相互比較することが重要である。この実験は、多様なデータを地上・衛星高速ネットワークで交換し、国内外の複数の研究拠点で同時参観しつつ、解析および科学的解釈を進めるための予備実験である。「衛星アプリケーション基盤技術の調査研究」の衛星回線を利用し、京都大学とインドネシアバンドン工科大学(ITB)を、JGN2 の回線を経由して接続する。

3. トポロジ



JGN2 の近畿-5 と関東-2 を接続して利用

4. イベントのスケジュール

6月30日 回線試験

7月17日 本番

5. イベントの実施結果

6月30日 接続実験

「衛星アプリケーション基盤技術の調査研究」の衛星回線の利用に備えて、京都大学と大手町との間の通信の確認を行った。両端とも多少の準備不足があったが、当日中に接続を確認した。

7月12日 接続実験（第2回）

実際に「衛星アプリケーション基盤技術の調査研究」の衛星回線を利用した接続試験を実施する予定であったが、7月10日に落雷か何かの影響によりインドネシア側の設備に障害が発生して利用できない旨の情報がいった。このため、7月12日の接続実験は中止となった

7月17日 本番

「衛星アプリケーション基盤技術の調査研究」の回線が利用できないため、イベント申請で設定して頂いた JGN2 の回線も利用できないこととなった。代わりに、AI3 の協力を得て、AI3 の衛星回線経由で京都大学とバンドン工大を接続し、今後の実験に向けての交流や情報交換等を行った。

なお、本イベントは公開ではなかったため、学外に対するアナウンスは行わなかったが、京都側、インドネシア側とも、70人程度の参加者があった。

以上